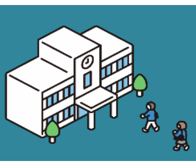
地域の理数教育拠点校として、学校の人的･物的学習資源を小･中学校の児童生徒へ開く特色ある活動



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数（赤字は内学校運営協議会委員数）			地域学校協働活動
さいたま市立大宮北高等学校	大宮北高等学校学校運営協議会	地域学校協働活動推進員	0 名	0 名	小学校へのアウトリーチ活動他
	令和3年4月1日 設置	地域コーディネーター	2 名	2 名	

取組の背景及び目標や目指す姿

背景
・本校では、さいたま市立高等学校「特色ある学校づくり」計画に基づき、SSHとして全国でもトップクラスのICT教育環境と学習プログラムを活用し、科学技術分野で日本をリードする人材育成を目指している。
・地域の理数教育の拠点となり、「さいたまSTEAMS教育研究指定校」の研究成果と、学校の人的・物的教育資源を、地域の小・中学校等に開いている。
・令和3年度からの学校運営協議会制度の導入により、特色ある学校づくりの一層の充実に努めている。

目標や目指す姿（学校）

SSH指定校として「自主・自律・創造」の校訓のもと、自ら育んだ高い「志」を実現し、次代を担い国際社会をリードする人材を育成する。

目標や目指す姿（地域）

生徒の自主性･自律性を伸ばす。

大宮北高等学校学校運営協議会　の特徴

委員の立場や属性等

- ☐ 学識経験者
- ☐ 地域住民
- ☐ その他委員会が認める者
- ☐ 保護者
- ☐ 校長
- ☐ 教頭
- ☐ 分掌主任

など、計 **15** 名で構成

年間平均 **3** 回程度開催

効果的な運営の工夫

・SSH第2期目として、カリキュラムの見直しなど研究の一層の充実を図る必要があるため、学校運営協議会の委員に学識経験者や多角的な視点を持った民間企業の方などを人選している。
・学校側の説明に対しての意見交換に加え、実際の教育活動を見ていただく時間を大切にしている。
・学校運営協議会では、学校運営のPDCAを重視した学校評価を行っている。
・学校運営協議会において、実質的な深い熟議がなされ、有用性が発揮されるよう校長自らが運営実態をPDCAサイクルにより評価する。

特徴的な取組と成果･効果

取組

学校運営協議会

SSH指定校として、特色ある学校の取組について、「世界に目を向けて『宮原から世界へ』」をテーマに学校運営協議会で熟議を重ね、本校のネイティブ教員が、地域の中学生を対象に英語で化学実験の授業を行うなど、学校の人的･物的学習資源を地域の小･中学校へ開く特色あるアウトリーチ活動を展開している。

学校運営協議会での熟議

地域学校協働活動

・小学校へのアウトリーチ活動として、高校生が小学生に理科の実験の楽しさを紹介
・夏休みに学校を開放し、高校生が小学生の自由研究へアドバイスをする機会を設定
・部活動の生徒による地域貢献活動の実施（コロナ禍で中止）

小学校への出前実験教室

「コミュニティ･スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

高校は通学範囲も広く、地元の生徒だけではない中、地元の小･中学校との連携を深めていることに感謝されており、学校運営協議会でも地域学校協働活動の一層の充実を求める意見等が出されている。そこで、地域住民等の理解を得て協働するために、活動の目的や目標を一致させることが重要と考え、校訓や目指す学校像等の共有を図るとともに、地域学校協働活動について学校側から丁寧な説明を行っている。

成果･効果

○　校歌の一節にもある「花咲く未来」を実現するために、この校訓のもと、生徒の「生きる力」をはぐくむことで、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材の育成を目指しており、地域学校協働活動については、それを具現化するものと考える。高校は通学範囲も広く、地元の生徒だけではないが、「学校を核とした地元」の住民等と交流を通して連携・協働することは、生徒一人ひとりの地元への貢献意識の向上にもつながると考える。
○　学校を開放し、高校生が小学生の夏休みの宿題にアドバイスをする「自由研究お助け隊」は、例年500人以上の小学生が参加し好評を得ている。
○　中学生のための「先進的科学教育プログラム　ASEP」(Jr. Hi Advanced Science Educational Program for Junior High School Students)は、年によっては30人以上の希望者があり、理数教育拠点校としての役割を十分に果たしている。
○　地域学校協働活動では、地域住民から会場の確保をはじめとした様々な応援をいただくなど、生徒のバックアップをしていただいている。
○　地元宮原まつり運営補助として、後片付けや清掃等へボランティア派遣を行ってきた。現在はコロナ禍で実施できていないが、自治会からも大変感謝されるとともに、地元の方との交流を通して本校生の実態を周知する良い機会となっている。